

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立図書館協議会				
事務局 (担当課)		図書館 電話042 - 754 - 3604 (直通)				
開催日時		令和3年6月4日(金) 18時00分～19時45分				
開催場所		相模原市立図書館 2階 視聴覚室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	3人(生涯学習課総括副主幹、他2名)				
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		人選案件のため				
議 題		1 議題 (1) 令和2年度図書館事業報告について (2) 令和3年度の予算等について  2 その他 (1) 淵野辺駅南口のまちづくりについて (2) 窓口業務委託事業者の選考に係る選考委員の選任について (3) その他				

## 議 事 の 要 旨

### 1 議題

#### ( 1 ) 令和 2 年度図書館事業報告について

資料 1 - 1、1 - 2 に基づき、事務局より説明を行った。

( 高柳委員 ) ( 3 ) の「人口一人当たりの貸出冊数」について、令和 2 年度が 2.7 冊とのことで、個人的には大きな数字だと思った。

この数字は、登録者が人口のうち何パーセントいて、そのうち実際に借りている方が何パーセントに減って、その方たちの延べ貸出冊数が多かったという理解で良いか。

( 事務局 ) ( 3 ) の人口一人当たりの貸出冊数は、市の人口に対する延べ貸出冊数となっている。登録者一人当たりの貸出冊数としては、( 4 ) で示した 12.2 冊となっている。

( 高柳委員 ) 登録者のうち、例えば令和 2 年度に実際に借りている方、借りていない方というのは分かるのか。

( 事務局 ) 当該年度に、貸出利用が無かった登録者の数は、システムである程度抽出できる。今後、令和 2 年度の評価においてお示ししたい。

( 高柳委員 ) 登録者のうちの何パーセントが今実際に利用されていて、登録したまま利用していない人がどれくらいいるのかが知りたいと思った。どれくらい利用していないと、登録が削除されるのか。

( 事務局 ) 貸出券の有効期限は 4 年で、その後の更新期間を経て、最終的に有効利用者から除かれることになる。

( 高柳委員 ) その期間に、全く利用が無ければ削除されるということで良いか。

( 事務局 ) その通り。令和元年度末の登録者数は約 17 万人、令和 2 年度末の登録者数は約 16 万人なので、昨年度から今年度にかけて約 1 万人程度の登録者が有効利用者から除かれている。

( 重光委員 ) 資料で挙げられている各数値について、他の政令指定都市や、町田市等の近隣都市との比較ではどうか。

( 事務局 ) 令和元年度の数値で比較すると、例えば「人口一人当たりの貸出冊数」( 相模原市 3.2 冊 ) は、政令指定都市 20 市中 17 番目となっている。近隣市では、町田市が 7.6 冊、海老名市・大和市が 5.5 冊、厚木市が 4.6 冊と、本市よりも高い数値となっている。

( 重光委員 ) 町田市はなぜそんなに高いのか。

( 事務局 ) 市域に対して図書館数やサービスポイントが多いことが要因として考えられる。

(重光委員) 政令指定都市で20市中17番目というのは、かなり悔しい。数値目標として、せめて真ん中位にとは思ふ。

町田市が相模原市の倍以上の数値を出していて、分析もなさって図書館数が多いということが要因だとすると、コストをかければ増やすことは簡単にできるということか。

(事務局) いくつかの数値を分析してみると、資料購入費が多い自治体ほど利用率が高い。本市は資料購入費で言うと政令指定都市の中で最も低く、市民が必要な図書等が購入しにくい現状がある。そのことが、借りたいと思う本がないから借りない、という状況につながっているのではないかと思う。

他方で、予算を直ちに増やすことが難しい状況において、何か工夫をしないといけないという課題意識は図書館でも持っている。例えば、先ほどの事業報告で挙げた視聴覚資料の交換展示の事例のように、予算の制約がある中でもできることはまだ少しあると考えており、他市の事例も参考に工夫を図っていきたい。

(重光委員) 予算が限られる中で知恵や工夫で乗り切っていくという事は尊い事だとは思ふが、市民から「こういうことに予算を使って欲しい」という訴えが出るような働きかけを、図書館から主体的にはしていないのか。

(事務局) 例えば直近ではコロナ禍の臨時交付金へのエントリーなど、図書館としても予算要求には努めてきたものの、本市の財政上の課題があって、そこが改善されないと、学校教育も含め教育費がなかなか十分に確保できないというのが現状だと見ている。

教育局として、生涯学習や学校教育に予算が必要という意識は共有されていると思うが、市全体の財政状況が厳しい中では、教育だけ増やすということはなかなか難しいのが現状である。

(重光委員) そういった意識を市民に共有してもらうのも大切ではないかと思う。

例えば図書館としては予算の増加を求めるといような訴えをホームページに出すことができるか分からないが、市民にとっても文化を守っていくという大義名分があるのであれば、それを市民に訴えて危機感を共有していくといった動きがあっても良いのではないか。

(事務局) 直接的に、財政が厳しいので本が買えないといような訴え方は難しいが、例えば図書の寄付の呼びかけを行うなどによって、図書館の状況や取組を間接的に市民に伝えることはできるのではないかと考える。

(小山会長) 予算に関する本市の方針をいかに発信していくかということとはとても重要なので、その議論があったことをまずは協議会で共有し、議事録として残していただきたい。

(小山会長) 1点確認しておきたいのは、例えば「人口一人あたりの貸出冊数」の中には、他市の住民の利用数が入っていないという認識でよいかという点である。例えば、町田市であればターミナル駅の近くにあって、他市の住民が良く借りているといった状況があるかもしれない。調査の条件が異なったまま比較しても意味がないので、基本的なことを共有した上で数値の議論ができたらと思う。

(事務局) 資料1 1の数値は、市外在住利用者の利用を含んだものとなっている。

(小山会長) 承知した。この資料の数値はあくまで1つの側面として見るべきである。また、今回は速報値ということなので、より正確なものを見ながらの議論も必要だと思う。

残念ながら国内の政令指定都市と比較すると、本市は良い状況にあるとは言えない。図書館活動を通じて数値の改善を図ることもさることながら、外部の代表である本図書館協議会において、市の部局や市民のみなさんにきちんと訴えかけるべきだという発言があったことなどをここで共有し、発信していくことにしたい。

(高柳委員) 事業報告を聞いていて、子どものおはなし会などが中止になるのは仕方のない事だと思う。ただ、おはなし会に参加した母親が児童書や絵本を借りることによる児童書の貸出冊数が多く、事業中止を受けて、この貸出しが大幅に減って数値に表れているかもしれないので、今後詳しく見ていきたい。

(田嶋委員) コロナ禍でもイベント等を工夫したという報告があったが、その結果がどうなったかという数値が出されていないように思う。例えば相模大野図書館の事例では、特設ホームページまで作ったということだが、おはなし会へのアクセス数などの数値は出していないのか。

(事務局) 特設ホームページのアクセス数は出していない。

サタデーおはなし会のオンライン開催については、全4回の開催で延べ18人の方に閲覧いただいている。

(小山会長) 18人というのは、どのように考えればよいか。

(田嶋委員) 開催方法はZOOMか。

(事務局) ZOOMで開催しており、その時間帯のみ閲覧いただける状態であった。18人というのは多い方と捉えている。

(小山会長) ZOOMで延べ18人ということであるが、複数開催した回の参加者を全て合わせて18名ということか。

(事務局) 複数回全ての合計となる。

(小山会長) 普段のおはなし会は何名程度の参加があって、それと比較すると、18名というのはこのように評価できる、というように報告してもらえると、質問した側も理解しやすい。

(事務局) 承知した。

(田嶋委員) もっと利用して欲しいという思いがある。コロナ禍にあって、インターネットで視聴する利点として、いつでも閲覧できるという良さがあると感じる。図書館のホームページ等からいつでも視聴可能な状態にできると良いのではないか。

ZOOMでの配信に限らず、コンテンツとして残すこと、チャンネル化することを検討し定着させるような工夫をするべきではないか。積極的なインターネットの利用というのを考えていただきたい。

(事務局) ZOOMにした理由は絵本の著作権にある。

ホームページに常時掲載するという形式では使用の許諾が得られず、ZOOMのように特定の方に一定期間見せるのであれば許諾が得られた。このため、急遽ZOOMに切り替え、ボランティアサークルの活動についてはZOOMで配信した。例年、土曜日開催のおはなし会であれば、4～5組、多いと10組近い参加があったところだが、急遽ZOOM配信となったため、ホームページや館内での周知期間が短くなってしまった。また、ZOOM配信のためのアドレスの周知も時間を取れなかった。今後続けていくなれば、周知方法は検討していきたい。

その他に、図書館のスタッフが制作した動画は、随時ご覧頂けるものもある。こちらのアクセス数等は現時点では出していない。

(田嶋委員) 著作権までは思い至らなかった。著作権フリーになった作品があるのではないか。

今後は、蔵書、紙の本の他にこのようなコンテンツをどれだけ持っているかが図書館の機能として重要になるのではないかと考える。例えば国会図書館で蔵書の電子化送信が進んでいるように、図書館の中にパソコンを常時置いておき、その中でコンテンツに自由に触れる、あるいは図書館としてコンテンツを購入して、プラットフォームを図書館利用者で共有するというような道が、今後出てくると思われる。そのような移行を見据えた対応ができればよいと思う。

(小山会長) 緊急事態宣言下でありながらも、インターネットやデジタルツールを活用してサービスを展開したということ、かつ制作した動画等の取り扱いについてもきちんと考えて対応したことは、評価すべきと考える。

ただ、それを一過性のものに終わらせず、今後のサービスにどのよう

に展開させていくのか、展望をもって進めて頂きたい。

(田嶋委員) もう1点質問である。先ほどの1人あたりの貸出件数に関連して、八王子市では郵便局で、海老名市は駅で図書の返却ができる。私の周囲でも、「駅で返却ができるようにしてほしい」という希望を聞くが、1人の人により多く借りて頂くためにも返却方法の検討ができないか。

(事務局) 4月20日から有料郵送サービスを開始しており、何件かお申込みを頂いている。特に図書館が近くに無い中山間地域では、郵送料よりも図書館への来館費用が高くなるケースも多いと考えられるため、積極的にPRを行っていきたいと考えている。

(小山会長) 貸出と同時に返却という多面的なサービスの向上も求めるという意見を頂いた。

(高井委員) 先ほど話のあった有料郵送サービスについて、タウンニュースで記事を見た。タウンニュースは新聞を取らない世帯は手に入れづらいので、地域情報誌等に載せると周知効果が高いと思う。

コロナ禍の中、かつ本離れが進む中で各種イベント行っており、評価したい。

(相馬委員) 図書館協議会には初めて出席するが、様々な工夫の上でイベントを行っていると感じた。

小学校では4年生で総合的な学習を行っており、SDGsをテーマに調べたいと子どもたちの間で話題になっていたのも、図書館でイベントをしていることや、関連する本もセットで借りられるということも学校でも周知したい。ただ本校は、一番近いところが公民館となる。学校の方でも積極的に公民館へ借りに行くことを意識させていければと思っている。

(事務局) 学校向けには「学校支援図書セット」というがあるので、ぜひご活用いただきたい。

(伊藤委員) 先程の予算の話題で、町田市の場合が出ていたが、相模原市との違いは何なのか。図書館の数か、蔵書の数か。

(事務局) 蔵書の新鮮度だと見ている。蔵書が毎年どれくらい入れ替わるのかを示した数値があるが、相模原市はその数値が低い。

(伊藤委員) 古い本が多ということか。

(事務局) やはり市民の方は新刊本やベストセラーに惹かれる。それが良いか悪

いか別として、そういった作品に貸出しが集中することが要因ではないかと考えている。

(伊藤委員) 話がそれるが、大和の駅前にあるシリウスを時々利用する。あちらは小さい子供が遊べる場所もある複合型の施設で、駅にも近く、市民をキャッチする力がある事例だと感じた。

もう1点、各種催しを紹介いただいたが、図書館同士の交流や情報交換は行っているのか。

(事務局) 館長が集まる会議や、3館の各担当職員が集まる会議で、情報交換をしたり、新たなアイデアを出したりということを定例的に行っている。

(伊藤委員) 住民が利用する場所は南区、中央区、緑区とそれぞれであろうから、良い催しを一つの館に留めずに、他の館でも行った方がいいという感想を持った。

(高柳委員) 事業報告の中でSDGsの話が出ていたが、相模原市は本村市長はじめとしてSDGsに力を入れていると聞いている。私の勤めている会社でも取り組もうと話がでており、興味深く拝見した。

相模大野図書館では児童ミニ展示という児童向けの展示にSDGsのコーナーが設けられていたようなので、それを他の図書館でも共有できれば、子どもたちや、市が募集しているSDGsのパートナーになりうる企業等にも働きかけることができるのではないかと感じた。

(松橋委員) イベントについて、色々なテーマを考えて取り組んでおり、子ども向けのイベントだけでなく、一般向けのイベントも多いと感じた。

また、読書週間などの本が主役のイベントについては図書館の出番だと思うので、学校と連携した授業をやってはどうだろうか。

読書記録手帖や読書記録ノートをぜひ見せてほしい。

(大谷委員) 貸出に関しては、蔵書の数が決定的な要素だと言われており、蔵書をどうするかという問題に手を入れない限り、根本的な改善は難しいと思われる。全国平均では一人当たりの蔵書冊数はだいたい3冊程度のところ、相模原市は2冊なので、やはり3分の2の蔵書数で全国平均並みの貸出冊数を出すのは、難しいだろう。

また、会議前に市立図書館の書架の様子を見てきたが、くたびれた本が多いなという印象である。これまでの話にあったとおり、新しい本が入らないと蔵書回転率が低くなる。蔵書回転率とは、それぞれの蔵書がどのくらい市民の手に渡って、また返ってきているのかという数字であ

る。じりじりと数値が落ちているのは、見たことがある本ばかりで、手に取って読もうと思えなくなってしまうと考えられる。電子書籍を導入している自治体では、コレクションの絶対数が足りず、何度も色々なものを手に取ってみることができないために、導入当初は利用が多いが、1～2年経つと大きく減ってしまうという事例がある。市民の皆さんに手に取ってもらえるものを用意することは、特に大切だと感じる。

イベントについては、コロナ禍ながらも数多く行っており、感動した。インターネットの効果については、昨年度はとにかくできることをするしかないという状況の中であったので、今年度から改善していくべきかと思う。ただ、インターネットのアクセス数については、検索エンジン等の機械による自動アクセスがかなり増えていて、分析には本格的なアクセスログ解析をする必要があり、手間と費用がかかるため、単純なアクセス数よりは満足調査等で補う必要があると考える。

予算に関しては、自治体の職員からは強く要求することは難しいだろうと感じている。場合によっては、市民の有志が集まっている協議会の評価報告の中で、はっきりと、これでは私たちが認められるような数値に到底届かないので、こういうことを考えて欲しいというような言い方をして伝えるべきと感じた。

(小山委員) 様々な要素や背景的なことも含めて、私たちが積極的に発言し、かつ図書館をサポートできればそれが一番良いと思う。次回以降に評価が始まるので、そこでご意見を頂戴しながら、良いところは良いと評価し、改善すべき点は強く促すといったかたちで発言できたらと思う。

## (2) 令和3年度の予算等について

資料2に基づき、事務局より説明を行った。

(田嶋委員) 私はフォトシティ相模原という相模原総合写真祭事業の実行委員をさせて頂いているが、連携した展示やイベントを図書館でできないか。例年、受賞式とレセプションは橋本図書館と同じ建物の中で行っている。

フォトシティの予算の問題でもあるが、3館に受賞者の写真集を配架する予算がなく、今年度はフォトシティ20周年記念事業として、図書館に写真集を入れる予算をつけるようにフォトシティ実行委員会の方で主張している。

図書館で相模原市が主催する相模原総合写真祭に対して協力を考えて頂けるのであれば、ぜひ検討いただきたい。

(事務局) 庁内連携展示というものがあり、年間を通じて行っている。担当課である文化振興課に確認させていただく。

(田嶋委員) ぜひ、お願いしたい。

(事務局) それぞれの課で行っているイベントなので、図書館ではその授賞式があることを承知していない場合もある。連携展示をしたいというお声かけを頂ければ、展示として参加することで連携可能と思われる。

(田嶋委員) 承知した。

(小山会長) 同じ市の中で行う行事・事業であるならば、もっと簡便に連携、協力すべきではないか。また、図書館の役割として、市内の諸団体が発行する資料は、積極的に収集すべきであるし、事情によっては寄贈依頼すべきと考える。今回、田嶋委員が関係者であることから発言があったが、地域に関わる資料は人を惹きつけるものにもなると思うので、ぜひ検討いただきたい。

(小山会長) 予算のうち、資料費が1000万以上減少している。次回は元の水準に戻るよう頑張ってもらいたいと発言しておきたい。

(事務局) 承知した。

## 2 その他

### (1) 淵野辺駅南口のまちづくりについて

資料3に基づき、生涯学習課より説明を行った。

(小山委員) この市民検討会には高柳委員に加わっていただいております、私は有識者会議に参加している。高柳委員から一言頂戴したい。

(高柳委員) 委員の数や入れ替わりが多く、なかなか検討が進ず、委員の中にもジレンマが感じられるが、事務局には引き続き頑張ってもらいたい。

コロナ禍の中で、マスクをつけた生活が続き、表情が見えないことが多く、子どもの発達に遅れが目立ち始めているという話を聞いている。今後もマスクをつけた生活は続くだろうし、様々な制約が多い中ではあるが、子育てをしている人は変わらず子育てをしていることに目を向けて検討を進めていただきたい。

(小山委員) このプロジェクトは「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺の街まちづくり」というもので、当該地域の住民のための公共施設をどうするかという大きな目標がある。他方、市立図書館は相模原市の中心的な機能を担う図書館であり、さらに中央図書館を目指すという方向を打ち出していることから、地域の図書館であると同時に、相模原市全体を見る図書

館としてどうあるべきかを議論しなければならない。今後、話が進んでいくと、図書館をどうすべきかを検討しなければならないことから、図書館協議会の場でも進捗状況をご報告し、相模原市全体の図書館として、また地域の図書館としてどうあるべきかご意見を頂戴したいため、先ほど生涯学習課にご説明いただいた。

( 2 ) 窓口業務委託事業者の選考に係る選考委員の選任について  
人選案件のため、非公開

( 3 ) その他

( 事務局 ) 次回図書館協議会の開催については、後日日程調整のご連絡をさせていただきます。

以上

## 相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小山 憲司	中央大学文学部教授	会 長	出 席
2	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会副会長	副会長	出 席
3	伊藤 隆一	相模原市立相原中学校長		出 席
4	相馬 圭	相模原市立桂北小学校長		出 席
5	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会副会長		出 席
6	金子 友枝	相模原市文化協会副会長		欠 席
7	大谷 康晴	青山学院大学コミュニティ人間科 学部教授		出 席
8	重光 崇	女子美術大学図書美術館グループ グループ長		出 席
9	田嶋 いづみ	公募		出 席
10	松橋 利光	公募		出 席